

分娩時の胎児管理に関する研究班分科会議事録

日時：昭和52年1月14日(金)

場所：東京、私学会館

出席者名簿	1. 東北大学	村井憲男
	2. "	星和彦
	3. 国立精研	成瀬浩
	4. 鹿児島大	沖利賢
	5. "	上田哲平
	6. 九州大	中野仁雄
	7. "	小柳孝司
	8. 岡山大	武田佳彦
	9. "	橋本雅
	10. 名市大	戸苅創
	11. 東京大	神保利春
	12. "	新居隆
	13. 鳥取大	前田一雄
	14. "	寺原賢人
	15. 日本医大	室岡一
	16. "	荒木勤
	17. "	越野立夫
	18. "	後藤正紀
	19. "	伏屋道夫
	20. "	重田優
	21. 厚生省母子衛生課	中原俊隆

(座長 日医大荒木)

東大、新居は、latent fetal distress の早期発見の重要性について述べ、東京大学産科統計を、過去10年間について調査した結果、本研究班の発足した最近5年間の仮死率、児死亡率はそれぞれほぼ半減し、安全分娩管理の発展に大きく寄与したとしている。latent fetal distress の早期診断法として、尿中Estriol、母体血中HCS、のほかに母体血中estriol、母体血中11-desoxycortisolに注目し、その結果について報告した。

日医大、後藤は児の予後を左右するHigh risk Pregnancy を早期に発見するために、胎盤機能検査法の一つとして新開発された、CAPヤマトン法の検討を行い、さらにマルトスのIUGR及び胎児仮死予防に対する治療効果について発表した。

(座長 鳥取大前田)

鳥取大前田は分娩監視装置使用により周産期死亡率の低下を認め、電算機による胎児仮死自動診断法について述べ、安全分娩管理を更に向上させている。又妊婦部分尿のエストロゲン対クレアチニン比は血中エストリオールとよく相関するとしていた。

慶応諸橋は心拍数、心電図、心音図、超音波ドプラー信号、脳波など多くの信号は同時に取り扱い、

かつ電気的安全性が確立された分娩監視システムを開発し、超音波ドプラー信号、胎児PO₂の連続的測定に成功したと発表した。

九大中野は超音波による分娩難易度の判定を行った。骨盤腔の超音波断層図を電算機処理によって、正常骨盤腔と難産、帝切例の比較をし判別基線をもうけた。これにより分娩経過予測が可能と思われ、X線写真によらない判定法として重要であると述べた。

国立精研成瀬は、ラットによる実験的早産や低蛋白栄養の胎仔を作り、これによる脳の蛋白合成障害について述べ、さらにケトン体利用や脳メッセンジャーRNA障害についても検討した。

(座長 岡山大武田)

岡山大武田は子宮内胎児栄養管理の上から、マルトスが種々な点で良好であると述べ、胎盤通過性の検討、各臓器への移行について検討していた。

鹿児島大、沖は新生児臍帯血中のACTH、全 corticosteroids 非蛋白結合 corticosteroids を測定し、ストレスに対する胎児の適応を検索して発表した。

東北大、星はラットを用いてWiggles worth の方法で実験的IUGRを作り、この胎仔が低酸素症に対する耐性の低下を確認し、更に糖代謝系との関連を追求していた。

名古屋市、戸莉は妊娠への薬剤投与の児に対する影響を調べ、特に陣痛抑制剤として注目されているインドメサシンの児に対する影響として、IRDS様の症状を呈する症例を報告した。これは胎児に移行したインドメサシンがプロスタグランジン合成を抑制し肺高血圧症を惹起する危険性を示している。

以上のように各班員は、各演題毎に活発な意見の交換を行い、最後に日医大室岡より、分科会会長として出席の労をねぎらうと共に今後の研究発展と総括的意見が述べられた。

なお、東大神保、日医大越野から今後の事務連絡について打合わせが行われた。

昭和51年度厚生省胎児環境班流早死産の 成因と対策に関する研究 分科会報告

議 事 録

分科会長 滝 一郎

昭和51年度流早死産分科会はプログラムのごとく昭和52年2月5日、福岡市において開催された。昨年度まで本分科会は内容により血液血清部門、内分泌部門、病理部門、免疫部門の部門であったが、本年度からは新しく疫学部門が加り研究成果の発表が行われた。午前中に血液血清部門および内分泌部門の発表が終り、午後の発表に先立ち、分科会長および事務担当者から会計報告書、研究報告書についての説明があり、東京大学産婦人科から木川源則助教授が来会され、質疑に答えられるとともに2月19日の総会における準備事項、従来不備な点が多かった事項についての説明がなされた。午後からは病理、免疫、疫学の各部門についての発表が行なわれた。各部門は滝、竹内、飯塚、岡本、竹村の各サブテーマのチーフの司会により、熱心な討議がなされ、午後5時分科会を予定のごとく終了した。